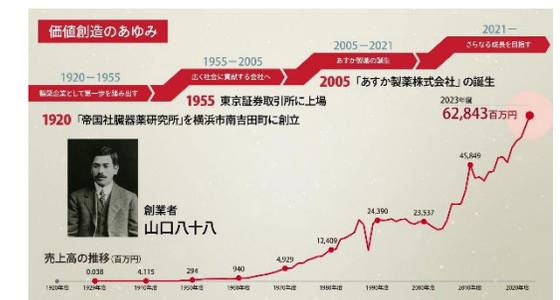
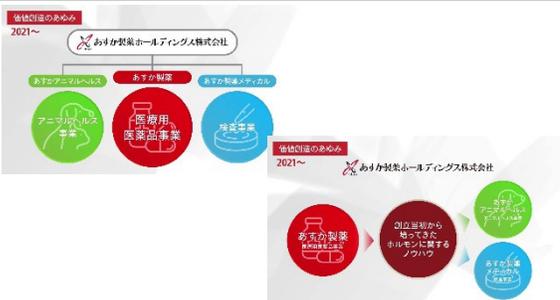
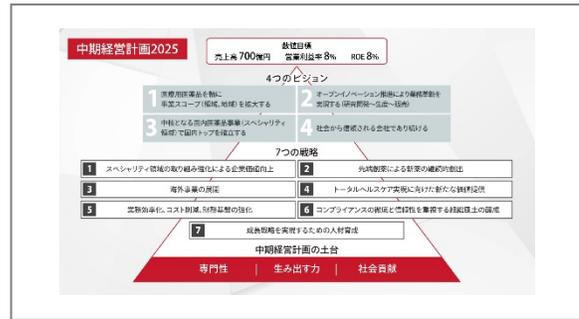


概要	画面イメージ	ナレーション
<p>経営理念・目指す姿</p> <p>統合報告書 9-10P 参考</p>		<p>私たち、あすか製薬ホールディングスは「先端的創薬を通じて 人々の健康と明日の社会に貢献する」を経営理念とし、</p> <p>「スペシャリティファーマを基盤とする トータルヘルスケアカンパニー」を目指しています。</p>
<p>歴史（過去～現在）</p> <p>統合報告書 5-6P 参考</p>		<p>始まりは1920年。</p> <p>山口八十八がホルモン製剤のパイオニアとして「帝国社臓器薬研究所」を創立し、1955年には東京証券取引所に株式上場しました。</p> <p>その後、2005年に「あすか製薬株式会社」が誕生し、</p>
<p>あすか製薬HDの全体像（ホールディングス化）</p> <p>統合報告書 19P 参考</p>		<p>2021年にホールディングス体制に移行しました。</p> <p>当社グループが創立当初から培ってきたホルモンに関するノウハウを活用し、医療用医薬品事業を中核に、アニマルヘルス事業、検査事業の3つの事業を展開しています。</p>

概要

中期経営計画2025
 (3つの土台、4つのビジョン、7つの戦略)
 ※昨年踏襲

画面イメージ



ナレーション

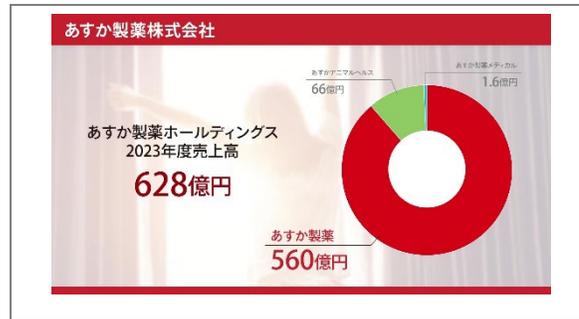
同時に、5か年の中期経営計画をスタートさせ、4つのビジョンの実現に向けて、専門性、生み出す力、社会貢献を土台に、7つの戦略の遂行に取り組んでいます。

最重要課題
 ※昨年踏襲



また、私たちが特定した11のマテリアリティの内、「女性の健康への貢献」と「アニマルヘルスへの貢献」は当社グループを挙げて推進しています。

あすか製薬
 (グループの中核)
 決算説明会資料 参考



「女性の健康への貢献」に取り組んでいるのが「あすか製薬」で、当社グループの売上高の約9割を占める医療用医薬品事業に注力しています。

概要	画面イメージ	ナレーション
<p>あすか製薬 (女性医療の重要性)</p> <p>統合報告書 21-26P 参考</p>	 <p>あすか製薬株式会社</p> <p>女性特有の疾患の罹患数</p> <p>子宮頸がん 238万人 子宮内癌 99万人 卵巣がん 225万人</p> <p>あすか製薬株式会社</p> <p>女性特有の月経随伴症状による年間の経済損失</p> <p>5,672億円</p>	<p>近年、月経困難症などに代表される女性特有の疾患の患者数が増加傾向にあり、大きな社会課題となっています。</p> <p>その背景には、女性の社会進出に伴う、生涯の出産・月経回数の変化などが関係しているといわれており、月経随伴症状による年間の経済損失額は5,672億円に上ります。</p>
<p>あすか製薬</p> <p>統合報告書 23P 参考</p>	 <p>あすか製薬株式会社</p> <p>月経随伴症状のケアをしなかった場合の経済損失額</p> <p>1兆703億円</p> <p>月経随伴症状のケアを選じた、経済損失削減額</p> <p>5,031億円</p> <p>うちあすか製薬の医薬品による経済損失削減額</p> <p>428億円</p> <p>月経随伴症状による現在の経済損失額</p> <p>5,672億円</p>	<p>そんな中、あすか製薬は、産婦人科領域の国内売上No.1のリーディングカンパニーとして、月経随伴症状を改善するさまざまな医薬品の提供を通じて、年間428億円の経済損失の回避に貢献しています。</p> <p>私たちは、予防から検査・診断、治療そして予後までを見据えたアプローチで、社会課題の解決に貢献していきます。</p>
<p>あすか製薬</p> <p>統合報告書 28P 参考</p>	 <p>あすか製薬株式会社</p> <p>主力製品のご紹介</p>	<p>ここで、「あすか製薬」の主力製品をご紹介します。</p>

概要	画面イメージ	ナレーション
<p>「レルミナ」</p> <p>統合報告書 39P 参考</p>		<p>子宮筋腫・子宮内膜症治療剤の「レルミナ」は2023年度の売上が前年度比12.1%増となり中期経営計画の最終年度の目標数値である100億円を前倒しで達成する見込みです。</p>
<p>「ドロエチ」</p> <p>統合報告書 39P 参考</p>		<p>また、月経困難症治療剤である「ドロエチ」は売上が61億2,500万円となり、大きく拡大しています。</p> <p>また、「女性のための健康ラボMint」を運営しており、さまざまな情報発信を通じて女性の健康への貢献に努めています。</p>
<p>「チラーヂン」「メルカゾール」</p> <p>統合報告書 39P 参考</p>		<p>なお、「チラーヂン」「メルカゾール」等の甲状腺製品の売上は年に約2-3%伸長し、国内シェア95%となり、甲状腺領域のリーディングカンパニーとしての使命を果たしていきます。</p>

概要	画面イメージ	ナレーション
<p>「リフキシマ」</p> <p>統合報告書 39P 参考</p>	 <p>あすか製薬株式会社</p> <p>2023年度売上高 58億6,400万円 (前同比 8.7%増)</p> <p>「肝性脳症治療剤」 小児に対する適応を拡大させた「リフキシマ」による アンメットメディカルニーズへの貢献</p>	<p>最後に、肝性脳症治療剤「リフキシマ」は2023年度の売上が58億6,400万円となり着実に伸長しました。</p> <p>小児に対する適応を拡大し、引き続き、アンメット・メディカル・ニーズに応えていくことで社会に貢献していきます。</p>
<p>「海外事業」「フェムテック」</p> <p>統合報告書 44P 参考</p>	 <p>あすか製薬株式会社</p> <p>ハタファー社との連携を視野に連携強化</p> <p>あすか製薬株式会社</p> <p>Female + Technology = Femtech 女性 テクノロジー フェムテック</p> <p>女性特有の健康課題をテクノロジーで解決する 「フェムテック」の取り組みを推進</p>	<p>ほかにも、戦略的パートナーシップを締結しているベトナムのHataphar(ハタファア)社と経済成長が見込まれる東南アジア地域での事業拡大に注力すとともに、</p> <p>女性特有の健康課題をテクノロジーで解決する「フェムテック」の取り組みを進めています。</p> <p>以上、「あすか製薬」は、今後も、新薬を中心とした医薬品事業の軸を強化しながら医薬品の提供だけにとどまらない、新たな価値を創造していきます。</p>

概要	画面イメージ	ナレーション
<p>あすかアニマルヘルス 統合報告書 45P 参考</p>		<p>アニマルヘルス事業を推進する「あすかアニマルヘルス」では、動物の健康と食の安全を守り、人と動物が「共生」できる社会づくりに貢献するために動物用の医薬品や飼料添加物を販売。</p> <p>アニマルウェルフェア（動物福祉）にも取り組んでいます。</p> <p>2023年度の売上高は、グループ全体の10%を超える66億円にまで成長し、当社グループの発展に貢献しています。</p>
<p>あすか製薬メディカル 統合報告書 47P 参考</p>		<p>最後に、「あすか製薬メディカル」では最新の測定技術を通して豊かな健康社会づくりに貢献するために検査事業に特化し、例えば、爪や毛髪だけで検査が可能な内因性ホルモンの検査キットなどを販売。</p> <p>ホルモン製剤で深い関係のある、あすか製薬・あすかアニマルヘルスとのシナジー創出に取り組んでいます。</p>

概要	画面イメージ	ナレーション												
<p>直近の業績</p> <p>2024年3月期 決算説明会資料 5P 参考</p>	<p>決算ハイライト</p> <p>2024年3月期の決算で過去最高の売上高・営業利益を更新</p> <table border="1"> <tr> <td>売上高(連結)</td> <td>628億円</td> <td>(前同比3.9%増加、過去最高を更新)</td> </tr> <tr> <td>売上原価</td> <td>321億円</td> <td>(売上原価率前同比1.5ポイント改善)</td> </tr> <tr> <td>販管費及び一般管理費</td> <td>241億円</td> <td>(売上高販管費率前同比0.4ポイント改善)</td> </tr> <tr> <td>営業利益</td> <td>65億円</td> <td>(前同比27.3%増加、過去最高を更新)</td> </tr> </table>	売上高(連結)	628億円	(前同比3.9%増加、過去最高を更新)	売上原価	321億円	(売上原価率前同比1.5ポイント改善)	販管費及び一般管理費	241億円	(売上高販管費率前同比0.4ポイント改善)	営業利益	65億円	(前同比27.3%増加、過去最高を更新)	<p>以上の3つの事業間のシナジー効果で収益の最大化に取り組んだ結果、2024年3月期の決算では売上高628億円、営業利益65億円となり、ホールディングスに体制移行してから、それぞれ、3期連続で過去最高を更新しました。</p> <p>中期経営計画の定量目標・定性目標の達成に向けて着実に進めています。</p>
売上高(連結)	628億円	(前同比3.9%増加、過去最高を更新)												
売上原価	321億円	(売上原価率前同比1.5ポイント改善)												
販管費及び一般管理費	241億円	(売上高販管費率前同比0.4ポイント改善)												
営業利益	65億円	(前同比27.3%増加、過去最高を更新)												
<p>コーポレートメッセージ</p> <p>統合報告書 1-2P 参考</p>		<p>私たちは、ホルモン製剤のパイオニアとして、「あすも、みらいも、すこやかに」をコーポレートメッセージに掲げ、すこやかな人生を歩む一人ひとりのために、人と動物が幸せに暮らす社会のために、挑戦し続けます。</p>												
<p>あすか製薬HDへの期待</p> <p>統合報告書 33P 参考</p>		<p>100年にわたり培った「あすかのDNA」を成長の源泉にイノベーションを促進する研究開発投資などの「攻め」とガバナンスの強化や、質の高い業務を実直に遂行できる人材の育成という「守り」の、両立ができています。</p> <p>私たち、あすか製薬ホールディングスに、今後ともご期待ください。</p>												

END